

# 香童の柊

壬生町立稲葉小学校 学校便り

平成30年1月24日

文責：校長 廣田 昌英

## ほめて伸ばす？

寒い体育館で始業式が行われる直前のことです。ある学年が一番最初に入場してきました。そして担任の「前へ、ならえ！」の号令で縦横ビシッとそろいました。寒さに負けず、冬休み明けとは思えない機敏な態度で見事に整列できました。思わず担任が「みんなとても立派です」とほめた瞬間、子ども達は「やったー！」と、跳んだりねたりガッツポーズの大騒ぎ。つまり.....整列が台無しでした。さて、これはいったい何年生でしょう？

## ナンパする小学生？

冬休みを前に4年生の教室で飼われていた金魚が校長室にやってきました。日直の職員が餌をあげやすくするためです。生井先生に誘導された係の児童がとても大切そうに、校長室まで水槽を運んで来ました。そして3学期を迎えた給食終了後のランチルーム。ある4年生男子が生井先生に向かって、「先生、僕とつき合ってください」.....。え？みんなが見ている前でそんな堂々と.....。すると続けて「校長室まで金魚を取りに行きたいので、一緒に来てもらえませんか？」だそうです。一瞬、近頃の小学生はずいぶんと度胸があるもんだと勘違いしちゃいました。そして生井先生、まんざらでもないような表情に見えたのは私だけだったでしょうか.....。

## 一生懸命

子ども達の体力作りとして代表的なのが、2学期は持久走、3学期は縄跳びです。本校では木村先生の誕生日である1月15日から2月22日を縄跳び月間とし、個人での短縄とクラスでの長縄の練習を奨励しています。体育の授業や昼休みに子ども達の様子をうかがうと、いやいや、意外な子が得意だったり、またその逆だったり、おもしろいものです。でも、1人で必死に短縄

に取り組んでいる姿や、クラスでの長縄で一生懸命友だちを応援する姿は素晴らしいですね。さすがは稲葉の子ども達です。そんな中、運動委員会主催で「なわ跳びがんばろうタイム」という、なんとも言えない微妙なネーミングの事業が行われました。二重跳びが苦手な子を集めて、運動委員の5、6年生が練習を手伝うという、名称からは想像できない素敵な事業でした。ジャンプして、体が宙に浮いている間に両手で両ももを「パン、パン！」と2度叩く、これが二重跳びを成功させるタイミングなんだそうです。運動委員がお手本となってみんな「パン、パン！」に取り組む姿は、ホントに素敵でした。運動委員も二重跳びが苦手な子ども達も一生懸命でした。

一生懸命な姿、そしてそれを一生懸命に応援する姿、どちらも素晴らしい姿ですね。

## one for all

寒い日が続きますが、用務員の高村さんは黙々と落ち葉を集めたり、危険な竹を伐ったり、施設の修繕をしてくれています。来校者がある日は欠かさずスズランテープで駐車スペースを確保してくれています。事務職員の川島さんと緑さんは、来校者を見かけるとすぐに立ち上がっておいしいお茶を出してくれます。職員に対しても、2時間目終了後にこれまたおいしいお茶やコーヒーが飲めるよう、準備をしてくれています。子ども達や職員のよりよいパフォーマンスのために、常に環境作りをしているんです。いわば稲葉小のマネージャー。かゆいところに手を伸ばしてくれる、とてもありがたい存在なんです。でも、考えてみたら、本校職員はみんなそういう存在です。誰一人欠けてもうまく学校が機能しないでしょう。こんな学校に勤務できる私はホントにラッキーです。いてもいなくても何の影響もない人物は.....私くらいでしょうか？